

第2回学校運営協議会記録

開催日時：令和元年11月29日（金）19：00～20：40

開催場所：気仙沼市立津谷中学校 校長室

欠席委員：森谷委員 及川委員 高野委員

佐藤委員 三浦委員

議事録署名委員：千葉 勝雄 印

議事録署名委員：千田 敬一 印

1 開会

2 出席者の確認

本日は委員の方々は8名出席，5名の委員の方々が欠席。

3 開会の挨拶

校 長

コミュニティー・スクールとして先導的立場である本校は現在，学校の課題や地域の様々な特色や願いを取り入れ，学校を核とした地域作りを推進するため，次年度に向け社会に開かれた教育課程の編成を模索している。

今回の会議は，以下のことについて熟議を通して忌憚ない活発な話し合いをお願いしたい。

①今年度10月まで取り組んできた活動報告について

②次年度の「具体的重点目標10箇条」について

③創立100周年を見据えた私案としての「津谷中学校 長寿命化計画」について

4 議事録署名委員の選出

議長として，榎木喜一会長，議事録署名委員として，千葉勝雄委員，千田敬一委員を選出。

5 熟議

議 長

限られた時間で多くの皆様から建設的な意見をいただきたい。特に学校統合後の円滑な学校運営を図るための意見をいただきたい。また，学校教育活動方針等の審議をお願いしたいという申し出があり，それを念頭に置きながらご意見をいただきたいと考えている。

最初の議題である「令和元年度前期（4月～10月）の取組について」説明をお願いしたい。

山 田

資料1をを説明。特に今年度、体育祭、文化祭については例年とは違い、半日開催とした。

委 員

体育祭、文化祭とも生徒の企画力が見られ、随所で生徒の頑張りが見られた。吹奏楽部については、3年間見てきたが、今年度の発表が人数が少ないながらも一番立派だったと感じた。

議 長

子供たちのまとまりや工夫が感じら、素晴らしい行事をみることができたと感じる。

校 長

体育祭については小泉中はこれまで市民運動会に全面的に協力するなど積極的に市民運動会と関わってきた歴史があるが、これから津谷中学校として市民運動会と合同で実施して行く必要があるのかについてご意見をいただきたい。

議 長

合同で行うことで教育的効果が高まると考えていると捉えているのか。

校 長

過疎化する地域の中で子供達が地域の良さを感じ取るような活動をさせたい。地域の人ともっと関わる必要があると感じている。現在は千葉委員の協力をながら、太鼓を中心に活動を行っているが、まだまだ足りないように感じている。中学生や場合によっては高校生などが入っていけるような学校と地域が一体となった行事をものを作っていきたいと考える。その一つが市民運動会と中学校の体育祭ではどうかと考えている。一気に進めることは難しいのですり合わせが必要とも考えている。

議 長

色々な関係機関と調整していかなければならないと思うが、この件についてご意見、ご質問等をいただきたい。

委 員

市民運動会の時期は？

校 長

10月の第1日曜日となっている。日程の調整については話し合いで解決できる

のではないかと考えている。

委員

本吉響高校と津谷中学校の文化祭の日程は全く同じ日であり，合同で市民運動会を行う際，他の行事にも影響が出るのではないかと心配な面がある。

委員

どの地区も高齢化社会となり，地区の世帯数の減少もあり，なかなか選手を集められない状況にある。担当者は苦勞している。現在は参加人数を確保するために年齢制限を撤廃した。今後中学生のいる地区といない地区の調整が必要となるのではないかと考える。馬籠地区から市民運動会のために津谷中学校に足を運ぶお年寄りもなかなかいないのではないかと考える。この点についても調整が必要と考える。

委員

中学生がいて参加してもらっていることで助かっているのも事実である。しかし，いる地区，いない地区の格差もあるのもまた現実でもある。

委員

統合前の馬籠小では在校生のいない家庭も全部 PTA 会員となっており，小学校の運動会には多くの参加者があった。小泉中も市民運動会と合同で開催してきたのであれば，両地区の経験からデータ（ノウハウ）を持っているのではないかと考える。小泉公民館と連携協力してできるのか否かの判断材料になるのではないかと考える。

議長

これまでの取組，現在の市民運動会の参加の様子からできる素地はあるのではないかと考える。

委員

馬籠小があったときには老人クラブ，小学生，幼稚園と共生し複数競技に出場してきた。地区あつての学校，学校あつての地区という考えが浸透していた。ただ最近では子供が少なく参加する人数が少なくなってきた。

議長

今の話し合いを聞いて委員の方々，話し合いの仕方では現時点で可能だと考えるか，ちょっとやってやれなくはないが大変そうだと考えるか。

委員

部活動との兼ね合いが問題の一つとしてあるのも事実。頼みづらさもある。

校 長

学校とすれば地区が大事であるので極力重ならないよう調整を行っている。地域あつての子供たちあると考える。

委 員

学校の考え方次第だと思う。体育祭としての津谷中学校の指導のあり方、市民運動会と合同でやることの意義についてお聞きしたい。また子供がいる家庭は出てくるが、子供がいない家庭については希薄化が進んでいるので出てこないのではないか。一般と中学生だけでなく小学生も参加し、必要に応じて幼稚園児もというように枠組みを広げていけば少子化が進んでいき人口が減っていく中でいいのではないかと考える。ただし、中学校に対するメリット、デメリットも考え、整理する必要がある。

議 長

体育祭の目的の一つに学級の団結がある。また体力の限界に挑戦するなどがある。また、市民運動会の目的は地区ごとのまとまり、親睦を深めることにある。この目的と齟齬が生じるのではないかという心配があるが・・・。

校 長

考え方次第だと思う。学級数が多い場合には学級の団結などが目的の一つとしあつたことも事実であるが、このように学級数、生徒数が減少している現在、他のものでそれを補う必要があるとも考えられる。例えば、企画、地域の中に入り込むなど自分たちが支え協力することで成功に導くなどのねらいを持つことにより「住み続けられる地域作り」というねらいを達成できるのではないかと考える。市民運動会は中学校区単位で行っているが、当地区では津谷は津谷、小泉は小泉で行っており、行政的にそれがうまく調整できるかも含めて新たな課題を整理していきたい。

委 員

昔は中学生が出場できる種目がなかった。しかし、現在では中学生が出場できる種目が多々ある。時間を掛けてでも公民館、市と協議して気仙沼市の前例となる運動会を作り上げてほしい。

委 員

中学校がどこまで市民運動会、幼稚園、小学校とミックスができるのか。そして目的を共有できるか。実行委員会制なども導入し、出てこない家庭も巻き込みながら、学校教育と社会教育との壁などを取り払っていき、行う前提で考えていき、色々な組み合わせも含めて今の時代にあつた運動会ができるのではないかと考える。

議 長

様々な意見があるが、実施する方向で考えていってほしい。

議 長

次の議題「津谷中で特に力を入れて取り組んでほしいこと」について

校 長

資料2を説明。これまでの目標を10箇条に絞り込みを行った。まだ学校内で精査している段階である。ポイントとしては

- ①ある程度はかることができる。
- ②目に見える形で結果を公表することができる。
- ③それに基づいてフィードバックし、次への取組に生かすことができる。

と考えている。

小学校・高校との系統についてのご意見、地域の方々からのご意見いただき、今後更に精査し、10箇条を完成させたい。

議 長

学校要覧にあるマイスクールプランでの目指すものは多岐にわたり、なかなか評価しづらく、結果が見えづらいという視点で、評価しやすくしたいと考えている。このやり方についてご意見をいただきたい。

委 員

項目2の「あいさつ」について、広報や学校だよりをみると「あいさつ」に力を入れているようであるが、保護者や地域の評価は？

校 長

データについては現在保護者アンケートなどで集計中である。次の学校運営協議会で提示することができる。

委 員

職場体験などを大事にしてほしい。自分の住んでいる場所、地域が分かっているのかといった地域を意識したもの、体験したものなどはかれる目標があればいいのではないか。

議 長

地域との関わりがある体験活動に関する目標は入れるべきだと思う。

委員

家庭の協力が必要となり、家庭・生徒へのメッセージともなる10箇条ともなる。保護者との課題の共有という意味からもこのことだけについてもアンケートは可である。アンケートの文言については学校側で決めることで構わないが、定量化した数値を設定するのであれば、なぜこのような目標なのかという生徒の意志に基づく目標設定であってほしいのが親の願いである。そして疑問を解決して一致団結してそれぞれが目標に向かえる状態を子供たちとの意識の共有も図ってほしい。

議長

子供のモチベーションを喚起しながら目標値を適切に設定してほしい。

校長

3学期の朝会で生徒に示し、意見や反応を見て形にしていきたい。

委員

昨日合同あいさつ運動を行った。2や5については今後も協力できる点については協力していきたい。8の自力通学については中学校の段階で徹底して行ってほしい。

校長

統合して通学距離も長くなっている生徒もいるのも事実である。第一歩として体育館まで送るのではなく、坂の下やはまなすタウンから歩いてくる習慣を付けることで精神的にもプラスになると考える。

委員

馬籠小学校でも同様の問題があった。

委員

学区の6割が被災し、道路事情も大幅に変わったが、体力の面からも坂の下から歩かせてほしいと保護者にお願いし取り組んできた。しかし、熊や不審者の問題もあり、また、学校付近まで送り迎えといった現時点での状態になっている。

議長

次の議題「津谷中学校 長寿命化計画」について

校長

資料3を説明。別紙参照。予算不足のためにできないではなく、事前に教育委員会に提示することで、理解を得やすい環境を整えておく。ハード面とソフト面の両面について説明。

委員

プールについて協力していきたい。また交流についてもできる所について交流していきたい。

委員

ソフト面の③～⑤について津谷中と本吉響高校のように隣接している所は珍しい。今後もこのメリットを生かしていくことが重要であると陸上の練習を通して感じた。

委員

学校林について同窓会の方々と昨年視察を行った。伐期の時期にきている。校舎改修に学校林の収益を充てられる可能性がある。旧校舎で学んでいたときに当時最先端のPCが1クラス分あり、実際に触れることで大きな財産になった。校舎改修などには使わず、ICT等に係る整備や備品に使って欲しい。

委員

学校林の収益で生徒一人一1台のパソコンやiPadを整備してほしい。市でできないのであれば津谷中学校が学校林の収益を利用してやることで突破口となって欲しい。そうすることで他の学校にも影響を与えてほしい。そしてこれに関わらず先進的に何事にも積極的に取り組み、子供たちに還元してほしい。それが他の学校の刺激にもなる。

議長

その他について

委員

ツイッターやSNS等の指導状況について教えてほしい。

校長

所持についてアンケートを実施。問題だと思われる事案があった場合には速やかに指導を行っている。また高野委員、気仙沼警察書生活安全課警察立ち会いの下SNSについて講話を行った。そして12月の参観日ではNTTドコモの講師を迎え、講話を行う予定でいる。

委員

SNSによる被害は55%以上が12歳から18歳で占められている。このうち性犯罪被害は90%とある。この点については親にも問題があると言わざるをえないではないか。今度の参観日の学年懇談の話題にしてもいいのではないかと考える。

委員

中学校に準じて指導を行っている。高圧的には指導をしてはいない。相談に乗ってくれる身近な大人が必要。SNSに頼るのではなく、その役割を教師が担うことができるよう取り組んでいる。

6 事務局から

熊谷

- 次回の運営協議会は2月を予定。
- 内容については今年度の学校教育活動の評。価
- 次年度の津谷中学校の経営方針について校長の説明，協議や検討。